

医師臨床研修のご案内



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

高山赤十字病院

臨床研修プログラムの理念・基本方針

理 念

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につける。

基本方針

- ・ **プライマリ・ケア**
さまざまな疾患を有する患者さんが受診していることより、common diseaseのプライマリ・ケアを幅広く経験し、医師としての基礎を築く。
- ・ **地域医療**
地域の基幹病院として初期（1次）から3次までの救急医療を担当しており、住民が安心して生活できるよう、地域の病院、診療所、介護施設などと連携した医療を実践する。
- ・ **指導体制**
長年の臨床研修の経験をもとに、診療間の垣根がなく、熱意ある指導医の下、実践を重視した研修を行い、2年間の初期臨床研修終了時にはどの医療現場にでも対応できる医師を育てる。



目 次

病院長からのメッセージ	1	研修医2年目	10
指導医からのメッセージ	2	臨床研修Q & A	13
先輩研修医からのメッセージ	3	研修医募集要項	14
臨床研修プログラム	4	病院見学・実習	15
研修医1年目	6		

病院長からのメッセージ

医学生諸君へ！

高山赤十字病院は岐阜県北部の地域中核病院として、日本赤十字社に移管後94周年を迎え、地域の信頼を得ています。

当院は昭和56年に地域医療の充実のため臨床研修病院に指定され、主として自治医大卒業医師の臨床研修を受け入れてきました。平成16年から必修になった初期臨床研修制度では今までに56名の研修医が巣立ちました。

当院の地域医療でのミッションは、急性期医療と高度医療を行うことと考えております。このため救命救急センターを併設し地域の救急を24時間態勢で行い、地域の信頼を得ています。さらに急性期患者を在宅等へ切れ目の無い移行を目指し、回復期リハビリ病棟、老人保健施設も併設し、超急性期から慢性疾患、終末期、介護、福祉まで幅広く医療を行っており、発症時からの一貫したプライマリ・ケア研修ができます。

救急医療では、地域の初期救急から3次救急までを担い、救命救急センター受診患者は年間約16,000人、救急車搬送台数は年間約3,000件で、症例は豊富です。研修医は指導医の下、救命救急センター副当直を担当し、あらゆる種類の救急疾患を自然に修練することが可能です。病棟において研修中は熱意ある指導医と共に患者を担当し、きめ細かい指導を心がけています。指導医に熱意ある医師が多く、またロールモデルになり、頼りになる経験豊かな医師たちです。

また、当院では各診療科の専門医を目指す研修医の皆さんのために、後期臨床研修制度を設け、初期研修から専門医まで一貫した研修を目指しています。今後も研修環境の改善、指導医の充実など研修の質が上がるよう努力していきます。

当院は僻地の病院ですが、幸いにも研修医の出身大学は、北は北海道、南は沖縄まで全国的です。また、どの研修医も地域医療に大変熱心であり、2年間の初期研修終了時には十分な経験と医師としての誇りを持っており、どこの病院においても即戦力になる人材になっています。今後も熱意ある研修医が当院に来てくれることを希望しています。

飛騨高山とその周辺は世界的な観光地です。周囲には山があり、温泉がありさらに皆さんの医療を待つ人がいます。豊かな四季とこまやかな人情の機微を、患者さんと共有しながら、医師としての第一歩を飛騨高山の地で踏み出してください。



病院長 棚橋 忍

指導医からのメッセージ

地域に根差した救急医療を…

高山は、岐阜県山間部北アルプスに囲まれた飛騨地区の中心都市です。飛騨地域の人口は約16万人ですが、年間400万人の観光客が訪れる観光都市のひとつです。東京都の約2倍の広大な面積を有し、当院はこの中の唯一の救命救急センターを有する3次医療機関であるため、この地域の重症外傷を含めさまざまな症例が当院に集まります。

私自身は外科医であるとともに、救急医学会指導医として約5年間名古屋第二赤十字病院で救急医療、研修医教育、国際医療救援を行ってきました。都会では患者さんの「たらい回し」というのが問題になりますが、この地域では当院が「最後の砦」として全ての救急患者を受け入れています。もちろん全疾患を当院で完結できるわけではありませんので、岐阜大学高度救命救急センターと連携を取ってドクターヘリを活用し、高度先進医療にも対応しています。「都会の救急医療」とは違った、救急隊との顔の見える関係と患者さんへの誠意ある医療の提供を常に心掛けています。

赤十字病院は地域に根差した救急医療、災害救護を行うという点で、他の一般病院と異なります。私自身は、阪神大震災の救護活動以来、スーダン、アフガニスタン、パキスタンなどでの国際医療救援を長年行っています。研修医の先生たちには、国内災害救護に参加していただくと医の原点を見つめる良い機会となります。さらに、興味のある方には実務経験を積んでいただき国際救援にもぜひ羽ばたいていただきたいと思います。当院には、内科・外科を含め専門科に細分化されていない分、救急医療を通して広い研修が可能です。

平成16年度から研修医が自主的に毎週朝、体験した症例をもとに勉強会を開催しています。プレゼンテーションをすることで勉強し、お互いに知識経験を共有するとともに、上級医が教えていく「屋根瓦方式」を継続しています。我々指導医も勉強会に参加することによりアドバイスとフィードバックを図っています。また、「臨床研修セミナー in 高山」を年に数回開催しています。今年度も予定していますので、ぜひ参加してみてください。

副院長・臨床研修管理委員会委員長 白子 隆志



先輩研修医からのメッセージ

私は特に病院の環境、研修内容、病院周囲の生活環境はそれぞれとても大切な要素であると考え、高山赤十字病院を臨床研修病院に選択しました。そして私は今、高山赤十字病院で臨床研修を受ける事ができてとてもよかったと感じています。

大都市の大病院と比較すると病院の規模としては一回り小さいですが、その分院内スタッフはお互いに顔を認識しており、コメディカルの方々も研修医をスタッフの一員として大切に育ててくださいます。



ICLSの様子

当院の研修内容の特徴は一言で表すなら「医師として責任を持って患者をみられる」研修です。1年目の内科研修は5ヶ月あり、主治医として患者さんの診療に当たります。専門科に細分化されず、消化器、呼吸器、内分泌など複数科にまたがって入院患者さんを持ち、長い経過の症例であっても入院から退院まで責任を持って診られる事は大きな利点です。専門科の垣根が低い事も特徴で、各専門分野の先生方にご指導いただきながら、検査や治療の予定をたてる事ができます。また長い内科の期間を利用して週に1回ずつ心エコーや腹部エコーや内視鏡検査を経験させてもらう事で内科終了時にはそのスキルも上達します。

外科・麻酔科研修では主に副主治医として診療にあたり、手術にも積極的に加わる事ができます。手術のみならず、緩和医療に関する知識を深めたり、救急外来で必要な外科手技や初期対応の方法、ICUでの全身管理に関しても学ぶ事ができます。

循環器内科・脳神経外科・整形外科研修では救急外来で遭遇する疾患を中心に初期対応の方法を学ぶ事ができ、同時に検査、治療に関しても多くを学ぶ事ができます。

さらに、研修医勉強会やセミナー、カンファレンス等を通じて症例を共有したり、学会発表を経験する事で、プレゼンテーション能力の向上や学術的な側面も学ぶ事ができます。

一方救急当直業務では外来初診、救急車の対応等もできる限りファーストタッチが原則で、ありとあらゆる症例を経験する事ができます。半年もたてば代表的な救急疾患を網羅し、救急部の一員としての自覚が芽生えるでしょう。上級医の先生方も教育熱心でコンサルトやご指導を快く引き受けてくださるので、安心して研修を行う事ができます。

上記のように病棟での研修と救急外来での研修をバランスよく経験し、1年目から自分が戦力としての自覚と責任感を持って診療にあたる事ができることはとても有意義であると思います。

2年目の研修では外部の病院での研修も可能です。また、平成25年度より高山市／デンバー市 研修医交流プログラムが開始され、コロラド州デンバー市にある University of Colorado Hospitalにて2週間の臨床見学も可能となりました。

また、当院は飛騨高山という日本を代表する観光地のすぐそばにある病院で、四季折々変化する街の景色はとても美しいです。

興味がある方はまずはぜひ当院に実際に足を運んで頂き、その雰囲気を経験してください。お待ちしております。

T.S.

臨床研修プログラム



特 徴

- 当院は飛騨地域における中核病院として日常の医療活動はいうまでもなく、地域の1次より3次救急医療までを担っています。そのため超急性期から慢性疾患、終末期医療、介護・福祉まで含めた幅広いプライマリ・ケアを修得できます。
- 研修医は指導医とペアで患者を担当し、指導医は親切な指導を心がけています。自治医大卒業医師の臨床研修を長く行ってきたことから、2年間の研修後には診療所において独り立ちできるレベルの医師を育てます。
- 内科研修は、様々な症例の診断・治療を6ヶ月間、指導医の下で主治医として繰り返し経験します。急性期から慢性期、終末期、在宅医療と一貫した研修となっています。
- 救急科研修では、脳外科、整形外科、麻酔科にて、救急対応を研修します。また、救急車同乗研修も行いますが、これはプレホスピタルの現場がわかると研修医から好評です。
- 年間の救急車搬送台数は約3,000件で、研修医は日当直の副直として救急患者に対応します。副直時では各診療科の指導医の下で、メジャーな科からマイナーな科まで質の高い幅広いプライマリ・ケア研修を行います。
- 地域医療研修（2ヶ月）では、僻地の病院・診療所、精神病院などで研修を行い、地域に根ざした医療を修得します。
- BLS、ACLS、JPTEC、ICLSなどの資格取得に対して積極的な支援をしています。また、年間を通じて救急に関する勉強会が非常に多く開催され、学習機会が多いのが特徴の一つです。
- 地域完結型の医療を提供する病院として、臨床研修の基本的理念であるcommon diseaseを幅広く経験できるよう以下の科目を必修としています。
 - ・外科 3ヶ月間
 - ・小児・周産期 2ヶ月
- 研修医のための勉強会の他、院内の各部署にて盛んに勉強会が開催されていて気軽に参加できます。毎週開催する研修医による自主勉強会では、通常遭遇する病態・疾患について自分で題材を探し、勉強したことをプレゼンし、他の研修医、指導医と活発な議論を行っています。

スケジュール

1年目

内科 (循環器内科含む)	救急科			外科 (麻酔含む)
	脳神経外科	整形外科	麻酔科	

《内科：6ヶ月》主治医として患者を受け持ち、総合的な研修を行う

《救急科：3ヶ月》脳神経外科（脳卒中）・整形外科・麻酔科にて救急対応を研修する

《外科：3ヶ月》

2年目

小児・ 周産期	地域医療 (精神科含む)	選択科
------------	-----------------	-----

《小児・周産期：2ヶ月》

《地域医療：2ヶ月》

- ・ 過疎地の病院の現状を理解する（2週）…………… 国保飛騨市民病院
- ・ 地域の精神医療の現場を経験する（2週）…………… 医療法人生仁会須田病院
- ・ 診療所の医療を経験し、病診連携について理解する（2週）
…………… 国保診療所（朝日・清見・久々野・荘川・白川・高根）
あらたに整形外科内科・丹生川診療所・高桑内科クリニック・
水口医院
- ・ 在宅医療を研修する（1週）…………… 高山赤十字病院
- ・ 地域の救急医療の現場を研修する（1年目に救急車同乗 1週）

《自由選択科：8ヶ月》

- ・ 全診療科 …………… 高山赤十字病院・名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院・
名古屋第一赤十字病院
 - ・ 精神科 …………… 医療法人生仁会須田病院
 - ・ 地域医療 …………… 国保飛騨市民病院・診療所（朝日・清見・久々野・荘川・白川・高根）
あらたに整形外科内科・丹生川診療所・高桑内科クリニック・
水口医院
 - ・ 地域保健 …………… 飛騨保健所（1週間）・老人保健施設 はなさと
- *2年を通じて献血研修を行う…………… 岐阜県赤十字血液センター
- *海外研修可：コロラド大学病院（デンバー 2週間）
- *自由選択科としての院外研修は6週間以内



研修医 1 年目



約2週間のオリエンテーション後、内科、救急、外科に分かれてローテートを開始します。
9月にはスピリチュアル研修（1泊）に参加します。その後新しい科での研修を開始。
救急部所属期間には整形外科、脳神経外科、麻酔科に所属して、各1ヶ月主に救急対応を研修します。

内 科 (循環器内科含む)	救 急 科			外 科 (麻酔含む)
	脳神経 外 科	整 形 外 科	麻酔科	

内科研修（6ヶ月）

内科での研修期間中は担当患者さんを入院から退院まで主治医として受け持ちます。プレッシャーもありましたが、様々な方々に助けられどうにか終了。何かしてくれるのを待つより、自分に何ができるのか考えます。困ったときは気軽に相談すれば、スタッフの皆さんが快く力を貸してくれます。

研修医は週1回、内科全分野の医師の前で症例提示を行い（研修医症例カンファレンス）、適宜指導を受けます。

研修医 H.N.



主治医として病棟回診



カンファレンス中



救急勉強会

当院研修医の出身大学

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
東京大学 岐阜大学	岐阜大学 富山大学 自治医科	岐阜大学 新潟大学 自治医科	岐阜大学 筑波大学 自治医科	岐阜大学 山形大学 藤田保健衛生大学 自治医科	岐阜大学 愛知医科大学 福島県立医科大学 久留米大学
計 2 名	計 6 名	計 5 名	計 7 名	計 7 名	計 7 名

外科（3ヶ月）

外科研修では指導医直属の副主治医として診療に当たります。実際に第一助手、第二助手として手術に加わり、low risk症例であれば指導医の指導の下、執刀医として執刀する機会もあるでしょう。救急車対応が多い点も、外科研修の特徴です。



救急科研修（3ヶ月）

整形外科、脳神経外科、麻酔科に各1ヶ月所属し、救急対応を中心とする研修を行います。

地域の3次救急病院のため、救急車搬送数は多く多様な救急症例を経験できます。



救急車同乗研修

救急車に同乗して、プレホスピタルの現場について1週間研修します。

スピリチュアル研修

研修開始から約半年が経過した時期に、1泊2日のスピリチュアル研修を実施します。



救急外来 ・ 救命救急センター

当院救命救急センターは、1992年12月に飛騨地域唯一の第3次救急施設として開設されました。対象は飛騨地域16万人であり、第1次から第3次までの救急症例に対して24時間全受け入れ体制で対応しています。

平成27年度救急外来受診者は16,269名、年間救急車受け入れ数は2,852台。疾病の中では脳血管障害と急性心筋梗塞症例が圧倒的に多数を占めています。

重症救急症例でかつ特殊治療を要する症例は、ヘリコプターまたは救急車で高次救急機関へと搬送を行っています。また、災害時多数傷病者搬送時や重症症例などで救急隊の要請があった場合、医師・看護師が現場へ駆けつけ、現場活動後搬送することも行っています。



BLS ・ ACLS ・ JPTEC ・ ICLS…

臨床の現場で出会う問題のすべてをEBMや教科書に書いてあることで解決できるわけではなく、経験から得るものや上級医から指導を受けて身につける知識なども重要になってきます。当院では研修医も指導医の下、主治医として多くの経験を積むOn the Job Training（現場での研修）を早期から行っています。また、Off the Job Training（仕事と離れて行う研修）にも力を入れています。当地域を対象としたICLSコースやJPTEC（病院前外傷診療）コース、院内のJATEC（外傷初期診療）ミニコース、ISLS（脳卒中初期診療）ミニコース、災害時のトリアージといったシミュレーション、Nutrition Support Team (NST) や Respiratory Support Team (RST) などの活動が盛んに行われ、研修医の参加を歓迎し研修医やスタッフの教育に力を入れています。



今後はDifficult Airway Management (DAM) ミニコースやFundamental Critical Care Support (FCCS) ミニコースの開催も予定されています。

救急外来

1年目研修医は着任後2ヶ月間、2年目研修医と共に救急外来診療（副々直）を行い、6月より月平均4回程度、日当直の副直として救急外来での診療に従事します。

ウォークイン受診の患者さんに対しては原則副直研修医がファーストタッチを行い、救急車搬送の患者さんは内科系・外科系指導医と共同で診察することになります。いずれの場合も指導医に確実にコンサルトできる環境が整っており、研修医が独りで判断をしなければいけない場面はありません。指導医の指導の下、研修医がリーダーとして救急診療に当たる機会が多いのも特徴です。科を問わず全科にまたがる初期診療を2年間継続して行うことで、幅広い領域にわたるプライマリ・ケア力が身につくこととなるでしょう。



救急外来・副直

当院では、一般的にみられる市中疾患から高度な医療を要する重症な疾患まで幅広い疾患を経験することができます。時には山間部の町村から1時間以上もかけて救急搬送されることもあり、僻地医療を担う当院の責任の重さを感じます。

4月、1年目研修医は副々直医として2年目研修医のアドバイスを受けながら見学・診療を行います。6月からはいよいよ副直医として活躍します。初めは緊張と不安でいっぱいですが、いつでも上級医にコンサルトできるので心配はいりません。しかし、まずは自分で考えて問診・身体所見をとり、鑑別診断を挙げ、必要な検査を行っていくことが重要であると思います。その後で上級医が不足している部分の補足や、誤った考えなどを修正してくださるので、とても勉強になります。上級医とマンツーマンで当直を行うため、各科の医師も研修医のことをよく知ってくださり、研修医が少人数である当院の利点であると思います。

正直なところ、眠れない夜や翌日の業務がしんどいこともありますが、毎回新しい知識を得ることができ、励みにもなります。いつの間にか重症な患者さんを見逃さない勘が養われてきます。

また、自分が当直で経験した症例を提示・検討する研修医勉強会も行われています。勉強会で知った症例に自分も遭遇し、ほっとしたこともあります。救急外来は、様々な疾患を経験し、初期対応を身に付ける貴重な場だと思っています。

研修医 A.K.



研修医 2 年目



2年目は小児・周産期2ヶ月、地域医療2ヶ月、自由選択科8ヶ月となります。各自の進路、希望に合わせてローテーションを組みます。ローテーションは、2年目の後半で変更が可能です。希望の方は海外（2週）、名古屋第二赤十字病院、鳥取赤十字病院、名古屋第一赤十字病院などでも研修できます。

小児・ 周産期	地域医療 (精神科含む)	選択科
------------	-----------------	-----



カンファレンス中



病室にて受持ち患者と

小児・周産期研修（2ヶ月）

朝はNICUの赤ちゃんの採血と担当する患者さんの診察。赤ちゃんって本当にかわいいです。それが終わると小児科病棟の担当患者さんの回診と小児科病棟に入院している子供たちの採血。小児科外来の子供たちのルート確保や採血も研修医の担当ですが、ベテラン看護師さんたちがうまくリードしてくれるので、安心してできます。この日は午後緊急帝王切開が入りました。赤ちゃんが元気に泣いてくれるとほっとします。手術が終われば小児科外来に時間外で受診する子供の診察も担当。common diseaseが多いです。困ったら上級医に相談です。

研修医 K.I.



未熟児室にて

地域医療研修（2ヶ月）

過疎地の病院・地域の精神病院・僻地診療所・などで地域医療を経験し、病診連携について学びます。

思い出に残る診療所研修

6月初旬に地域医療研修にて、荘川診療所、丹生川診療所を回りました。いずれも山や畑に囲まれたこれぞ僻地中の僻地、地域唯一の医療機関として診療所での診療に加えて、山を越え峠を越えた往診から地域の福祉計画、医療計画作りまで、地域に根付き、たった一人で地域を支える先生方の姿、そして責任感に大きな感銘を受けました。



研修医 K.Y.

選択科研修（8ヶ月）

当院の全診療科の他、名古屋第二赤十字病院・鳥取赤十字病院・名古屋第一赤十字病院でも研修が可能です。

また、高山市の姉妹都市であるデンバー市のコロラド大学病院での2週間の研修も可能です。（ただし、院内選考あり）

名古屋第二赤十字病院 放射線科研修

放射線科研修のため名古屋第二赤十字病院へ1ヶ月行かせていただきました。

読影をメインでIVRの見学もさせていただきました。一日中読影をし続けるという機会はなかなかなく、とてもいい勉強になりました。先生方もみな優しく温厚でとても居心地がよかったです。また、他院の研修医とかかわれるのはとてもいい刺激になります。

いろいろな科やいろいろな病院で学ぶことで是非有意義な研修にしてください。

研修医 H.N.

コロラド大学病院研修



研修医のための勉強会

研修医勉強会

臨床研修オリエンテーション（4月）

研修医救急勉強会（4～5月）

※各科指導医による勉強会

毎週火曜朝 研修医勉強会

毎週水曜昼 救急外来勉強会

臨床研修セミナーin高山（年5回程度）

※院外講師によるセミナー



臨床研修セミナーin高山

全職員研修（1年目研修）

新採用者研修（4月）

リフレッシュ研修（8月頃）

交流会（1月頃）



リフレッシュ研修

図書室・地域連携研究室（図書閲覧室）

図書の貸出、閲覧が可能です。また、パソコンを合計8台設置しており、インターネットも利用できます。

病院にない文献は、無料で取寄せることができます。

利用できるデータベース：医中誌WEB、Medline with full Text、Dyna Med、Pub Med、コクランライブラリー、他



図書室



地域連携研究室（図書閲覧室）

臨床研修Q & A

Q：各診療科では十分な指導が受けられますか？

指導医についてマンツーマン体制の指導を受けます。熱意のある研修医には、指導医の下で、多くのチャンスが与えられます。診療科同士の垣根が低く、他科の医師にも気軽にコンサルトしやすい雰囲気です。

Q：日常における研修が雑用に追われるということはありませんか？

主治医、副主治医として診療を行い、一部の大規模病院と比較して診療補助的な雑用は少なく、医師としての研修業務に集中できます。地方病院は、都会に比べてコメディカルスタッフが優秀なのが特徴です。

Q：一日の勤務時間はどのようなものですか？休日、休暇についても教えてください。

平日の就業時間は、朝8時半から17時ですが、実際には朝早目に来て、就業後も病院に残る研修医が多いようです。担当患者の急変時、緊急処置時などには勤務時間外であっても呼び出しがあります。毎週火曜朝には研修医の自主勉強会を開催しています。受持患者がいる場合は土・日も回診をしますが、その後はフリーです。原則チーム医療なので、交代で完全オフも与えられます。有給休暇のほかに実質1週間の夏休み取得も可能です。

Q：職場の人間関係、雰囲気はどうですか？

指導医はもちろん、コメディカルスタッフ、そして患者さんも研修医に対して非常に温かい心遣いがあります。研修医でも一人のドクターとして対応してくれます。各科・職種を超えた宴会やスポーツ大会も頻繁に開催されており、楽しい雰囲気です。

Q：研修医の出身大学は？

全国各地から国立私立を問わず集まっています。研修医の多くが一部の大学出身者で占められる病院と異なり、バックグラウンドの違う研修医たちと研修を行うことで得るものは多いでしょう。

Q：住環境はどうなっていますか？

研修医の住居は病院の目の前にあり（病院まで徒歩1分程度）、車庫付き、家賃は半額補助あり。コンビニ、大型スーパー、家電量販店へのアクセスもよく、観光地である「古い街並み」へも徒歩10分程度です。

Q：オフの過ごし方としては？

飛騨高山は日本有数の観光地です。休日は観光スポットを散策し、街並みを眺めながら過ごすのもいいでしょう。飛騨牛、高山ラーメン、蕎麦、新鮮な野菜、漬物、富山湾からの新鮮な魚介類、そして地酒にと豊かな食文化を誇る高山はグルメ派のあなたもきっと満足。少し足を延ばせば世界文化遺産である白川郷や五箇山、上高地、松本、金沢、富山もすぐそこです。また、高山は乗鞍岳、焼岳、槍ヶ岳、穂高連峰、白山と名山に囲まれた自然環境豊かな土地柄です。車で1時間も走れば下呂温泉、飛騨小坂温泉郷、奥飛騨温泉郷といった有数の名湯秘湯があり、オフは登山にドライブに温泉巡りに繰り出す研修医も多いようです。車で1時間以内の範囲に大型スキー場も複数あり、冬はウィンタースポーツに燃える者もいます。自然と文化、食に恵まれた高山での2年の生活は、オフでも大きな思い出になるはずです。

臨床研修医 募集要項

研修医の定員	8 名
処 遇	<p>身 分：研修医（正職員に準ずる）</p> <p>給与（医師確保手当を含む・税込み）：</p> <p style="padding-left: 40px;">1 年目 450,000円／月</p> <p style="padding-left: 40px;">2 年目 500,000円／月</p> <p style="padding-left: 40px;">日当直手当 13,150円／回（副直）</p> <p style="padding-left: 40px;">その他手当 扶養手当・通勤手当・時間外手当 等</p> <p>賞 与：1 年目 665,388円（H27年度実績）</p> <p style="padding-left: 40px;">2 年目 1,122,240円（H27年度実績）</p> <p>有給休暇：年間 21日以内</p> <p style="padding-left: 40px;">別に夏期休暇あり</p> <p>福利厚生：健康保険・厚生年金保険・雇用保険・労災保険</p> <p>住 宅：医師住宅家賃補助あり</p>
選 抜 方 法	マッチング公募および面接
必 要 な 書 類	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履歴書（ホームページよりダウンロードできます） 2. 卒業見込み証明書 3. 成績証明書 4. 健康診断書 5. 推薦書（医学部長、医科大学学長）
試 験 日（面接）	<p>平成 28 年 7 月 25 日（月）、8 月 1 日（月）、8 日（月）、15 日（月）、22 日（月）、29 日（月）に実施。</p> <p>上記日程で都合の悪い方は、ご相談ください。</p> <p>定員に満たない場合は二次募集を行います。</p>
応 募 締 切 日	面接希望日2週間前までに必着
応 募 先	〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地 高山赤十字病院 総務課 採用担当
お 問 合 せ	<p>研修内容全般について：臨床研修管理委員会委員長 プログラム責任者 白子 隆志</p> <p>募集について：教育研修課</p> <p>TEL：0577-32-1111（内線3362） FAX：0577-32-6802</p> <p>E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp</p>

病院見学・実習

医学生による病院見学・実習などの卒前研修を、随時受け入れています。
夏期、春期には特別に企画していますので、ホームページをご覧の上ぜひお申込ください。



- ・ 広大な飛騨地域の基幹病院！
- ・ 豊富な救急症例！
- ・ 研修医育成に実績あり！
- ・ 地域医療の最前線を経験できる！
- ・ 学生に対しても懇意な指導！
- ・ 日本有数の観光地・飛騨高山！

来たれ高山日赤に！

申込方法

実習申込書をホームページよりダウンロードし、FAXまたは電子メールにて下記アドレスにお申込ください。実習決定後、大学学生課などにて「実習依頼書」を発行してもらい、病院長宛てに送付してください。

持ち物

白衣・名札（大学で使用しているもの）・聴診器・筆記用具など、必要と思われるもの。

実習内容

研修医、指導医について実習を行います。実習時間は原則8：30～17：00です。救急外来見学は17：00～20：00です。実習日数については、相談に応じます。適宜指導医、研修医との懇親会を企画します。

宿泊

病院の近くに宿舎あります。部屋にはバス、トイレ、冷蔵庫、電気ポット、寝具、机、他あり。徒歩圏内にコンビニ、スーパーマーケット、コインランドリー、銭湯があります。日用品は各自でご用意ください。

申込先・お問合せ

〒506-8550

岐阜県高山市天満町3丁目11番地 高山赤十字病院 教育研修課

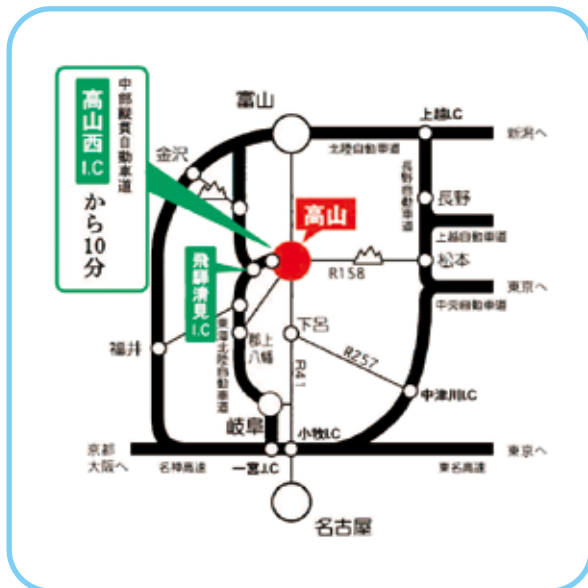
TEL：0577-32-1111（内線3362） FAX：0577-32-6802

E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp

周辺地図
交通
アクセス



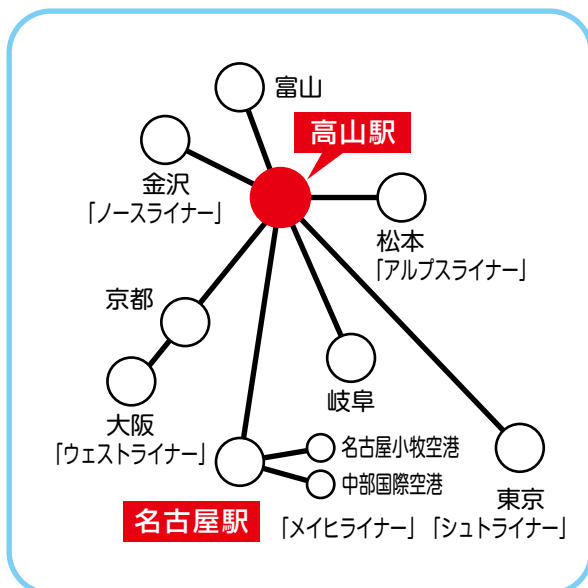
車利用



電車利用



高速・特急バス利用



医師臨床研修のご案内
(平成29年度募集)

発 行：高山赤十字病院
住 所：〒506-8550
岐阜県高山市天満町3-11
T E L：0577-32-1111 (代表)
F A X：0577-32-6802
H P：www.takayama.jrc.or.jp
編集責任：臨床研修管理委員会
E-mail：dr_kenshu@takayama.jrc.or.jp